

北大大学院の山口准教授

若手科学者賞を受賞

表層から 深海まで プラנקトン研究

海水表層から深海までのプラנקトンの大きさの違いなどを明らかにしたとして、北大大学院水産科学研究院の山口篤准教授(39)が、文部科学省の本年度の若手科学者賞を受賞した。文科省によると、深海に及ぶプラנקトンの研究は世界的に例がないという。山口准教授は「地道な研究が評価され、素直にうれしい」と喜んでいる。

(高田未登里)



若手科学者賞を受賞した北大大学院の山口准教授

同賞は文科省が2005年度から毎年、科学技術分野で功績を残した40歳未満の研究者を表彰している。今年度は全国82人が選ばれ、道内ではただ一人だった。

山口准教授は03年から継続して、太平洋の

亜寒帯域(最北端は稚内)から亜熱帯域(最南端は沖縄)まで、海面から最深5800メートルまで海水の定量採取を

行い、生息するプラנקトンの分類や大きさの違いなどを調べてきた。亜寒帯域は大型のものが多く、亜熱帯域は小型なもののみが生息していたなどの結果が得られた。

亜寒帯域のプラנקトンが大きい理由は、表層の海水が冷たく比重が重いため、プラנקトンの体をつくる基となる窒素などの栄養塩の多い深海の水と混じりやすく、亜熱帯域よりも栄養が豊富なためという。

山口准教授は「まだ知られていない海の世界の研究を続け、優秀な研究者を育てたい」と話している。

山口准教授の研究テーマはオランダの専門書に掲載される予定だ。

2011年5月21日
北海道新聞朝刊
道南版27面